



～住みよく居心地の良い奈良市へ～

奈良市議会議員 日本維新の会奈良市議団 所属

# 佐野かずのり

## 議会活動レポート

令和4年6月奈良市議会定例会の一般質問では、「奈良のシカ」の鹿害問題に絞って、特に市街地における鹿害について問題提起いたしました。

また、観光文教委員会での質問や要望、そのほか日々の活動をご報告いたします。

### ◆ 「奈良のシカ」による鹿害 ◆

近年、天然記念物である「奈良のシカ」による農作物被害は増えており、農業者の営農意欲の減退や耕作放棄地の増加、後継者の減少にもつながっている。

農作物被害の対策内容と令和3年度実績は、市内全域を対象とした有害獣防除施設設置事業により、有害獣の侵入を防ぐ防止柵設置費用の一部補助が行われており、令和3年度の補助実績は82件406万1,064円であった。

また、鹿害阻止組合に対し、鹿害防止柵設置事業補助金として970万円の補助があった。

しかし、有害獣防除施設設置事業の補助金は材料費の2分の1しか補助がなく柵の設置は人件費が大半を占めるため、ただでさえ利益の薄い農家にとって負担が大きく、営農意欲を減退させる要因になると思われる。

コロナ禍で鹿せんべいを与える観光客が減少したことや頭数が増加したことでエサ不足になり、市街地に鹿が出ているという誤った情報により、鹿が可哀そうだからと餌をやる人が増えている。

鹿の主食は草であり、奈良公園の草は減っておらず、過去20年間の奈良公園の頭数は少ない時で1100頭、多くても1380頭で増減を繰り返しており、令和3年度では1105頭であった。

不用意な餌やりにより奈良公園の草や鹿せんべい以外のものを食べることで美味しいものを知り、奈良公園付近から離れて市街地に出てきていると推測される。

鹿が市街地に出ることで農作物の被害以外にもフン害や植栽の被害も実際に出ており、不用意な餌やりにより味を覚えた鹿はゴミをあさり、散らかったゴミの掃除は住民の皆さまの手を煩わせ、ゴミを食べた鹿の胃袋にはビニールなど消化しないゴミが溜まり、それが原因で死んでしまう鹿も増えている。

また、発情期の鹿は気性が荒くなり危険で、子供や高齢者への被害も心配される。

「鹿に鹿せんべい以外の食べ物を与えないこと」や「市街地で見かけたら愛護会に通報する」など、市民一人ひとりの意識を高めることが必要と思慮するが、その点についての市の考えは以下の通りであった。

農作物や植栽への被害、また、鹿のフンの対処においても住民の皆さまが大変なご苦勞をされていると聞いており、鹿への不用意な餌やりが、奈良公園外へ鹿を誘導してしまう一因であることは十分に考えられると認識している。

天然記念物「奈良のシカ」はあくまで野生動物であり、観光客はもとより、市民の皆さまにも安易な餌やりが市街地での鹿の被害につながるという意識を持っていただくよう促していくことは重要で、SNSや市民だより等を通じて啓発を図ることが必要。

また、奈良県が令和4年4月に策定した『天然記念物「奈良のシカ」保護計画』においても、鹿せんべい以外の餌やり禁止やフン被害などの環境被害の防止について取り組まれており、保護計画の実施に関係機関と連携していきたいとのことであった。

「奈良のシカ」は大切な観光資源ではあるが奈良公園にいてこそその観光資源であり、市街地に出た鹿に関しては市民に大きな被害をもたらしている。

愛護会からの情報では、令和2年の交通事故で負傷死亡した鹿は141頭、令和3年ではコロナの影響で減少したものの93頭の鹿が犠牲になっている。

なぜ餌やりがだめなのか、なぜ愛護会へ通報しなければならないのか、市民や観光客に対して正確で詳しい情報を伝え、県市協力して更なる啓発に努め、市街地に出た鹿に関しては捕獲して鹿苑への隔離ができるような取り組みを検討していただきたい。

#### <夜間、奈良市街地を徘徊する鹿の群れ>



#### <植栽被害>



平成26年から県、市、春日大社が費用を負担して開始している鹿苑整備事業も、令和7年に完了予定で鹿苑も綺麗に整備され環境も良くなると聞いている。

県策定の『天然記念物「奈良のシカ」保護計画』では、鹿害について東部山間地が主に取り上げられ市街地の鹿害についてはほぼ議論されていない。

ぜひ市街地の鹿害についても問題提起していただくよう強く要望した。